



認知症を有する人と家族に対する作業を通した健康促進に関する研究

保健福祉学部 作業療法学科
教授 西田 征治（にしだ せいじ）

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 3420 号室
Tel. 0848-60-1275 Fax. 0848-60-1275
E-mail s-nisida@pu-hiroshima.ac.jp
(@は半角に置き換えてください)



専門分野： 作業療法学（身体・老年領域）

キーワード： 認知症 家族支援, ウェルビーイング, 介護負担, 作業遂行

● 主な取り組み・活動

認知症高齢者の数と有病率は、2025年には700万人と、65歳以上の高齢者の約20%に達すると推計されています。高齢化の進展に伴いその数は今後も増えると予想されています。本研究室では、主に認知症を有する高齢者とその家族が、より良い生活を送るための支援の方法について研究を進めています。以下に主な研究を紹介します。

1. 作業に基づく訪問作業療法プログラムの開発

認知症を有する人が興味・関心を示す作業を特定し、その支援技能を家族介護者に指導する訪問プログラムが、無気力、妄想などの行動心理症状の改善や、家族介護者の負担感を軽減させることを実証してきました。

https://www.jstage.jst.go.jp/article/asiajot/13/1/13_7/pdf

2. 作業療法グループ活動の有効性検証

病院や施設で生活している認知症高齢者が集団活動をする効果や意義を検証しています。

<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/pu-hiroshima/file/12559/20180316122256/hohuku18027.pdf>

3. 作業遂行を促進する支援技術の開発

認知症を有する人に対して、作業遂行を促進する支援技術（戦略学習支援、人や環境の構造化など）の調査や実証研究を行っています。

https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/3/33562/20141016193835354032/JHSHU_10-1_6.pdf

4. 若年性認知症の人の就労・社会参加調査

若年性認知症の人が有する力を発揮し、就労や社会参加を果たして、生きがいややりがいを感じられる社会を構築するため、多職種連携の在り方について調査しています。

5. 家族教育プログラムの開発

認知症の人がより良い生活を送るために家族に求められる技能、知識や動機づけを明らかにし、それらを習得する教育するプログラムの開発を進めています。（科学研究費）

● 今後の目標・抱負

主に認知症を有する人とその家族が住み慣れた地域でいきいきと生活できる社会を構築するために、作業療法士が担うべき役割、支援の方法を明らかにするとともに、作業療法の効果検証をしていきたいと考えています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

- 認知症カフェの開設と運営の支援
- 地方行政や地域包括支援センターと連携した若年性認知症の人のワーキンググループ
- 認知症デイケアなどと連携した、家族教育プログラム（研修）の提供と効果検証
- 入所施設や病院を対象とした、認知症の人と家族に対するケアの在り方や作業療法の実践に関する研修と研究

● これまでの連携事例・実績

- 厚労省中国四国厚生局、みずほ総合研究所との老健事業（若年性認知症関連）
- 地方行政の認知症予防事業への協力
- 地域包括支援センターとの在宅認知症高齢者とその家族へ訪問プログラム開発研究
- 精神科病院での作業療法の効果検証